

誕生周年  
10

伊勢崎市誕生10周年記念事業

第10回

いせささきこ能

こかじ

# 小鍛冶

伊勢崎市ゆかりの番外曲「親任」の復曲



天に声あり  
地に響く  
壁に耳  
岩の物言う世の中に  
隠れはあらじ殊になお  
雲の上人の御剣の  
光は何か暗からん

2015年1月24日(日) 13:30~16:30 [開場/12:30]  
伊勢崎市境総合文化センター【大ホール】

独吟 — 『親任』<sup>ちかとう</sup> / 加藤 眞悟 仕舞 — 『楊貴妃』<sup>ようきひ</sup> / 梅若 万三郎 狂言 — 『水汲』<sup>みずくみ</sup> / 高澤 祐介

能 — 『小鍛冶』<sup>こかじ</sup> 白頭 / シテ: 加藤 眞悟、ワキ: 安田 登、笛: 栗林 祐輔、小鼓: 幸 信吾、大鼓: 亀井 広忠、太鼓: 梶谷 英樹

席・料金(全席指定) ●S席/3,000円[友の会会員/2,700円] ●A席: 一般/2,000円[友の会会員/1,800円] ●A席: 高校生以下/1,000円[友の会会員/900円] (※未就学児の入場はご遠慮ください。)

チケット発売●10月23日(土) 午前9時から友の会電話予約(境総合文化センターのみで受付/席の指定はできません) ●10月25日(日) 午前9時から窓口発売・午後1時から電話予約

主催●いせささき能実行委員会 主管●(公財)伊勢崎市公共施設管理公社 後援●伊勢崎市・伊勢崎市教育委員会・伊勢崎市観光物産協会

プレイガイド/伊勢崎市境総合文化センター・伊勢崎市文化会館・赤塚芸術文化プラザ



## 第10回 いせさき能「小鍛冶」

伊勢崎市ゆかりの番外曲「親任」の復曲

平成27年1月24日(土) 午後1時30分～午後4時30分頃

① 番外曲「親任」について／伊海孝充(法政大学准教授)

② 独吟「親任」／加藤眞悟

③ 「高砂」を謡ってみよう

みなさんで「高砂」を謡ってみませんか 指導／加藤眞悟

④ 曲目解説と実演

○解説：丹羽幸江(昭和音楽大学講師)

○実演：太鼓方／梶谷英樹

⑤ 仕舞「楊貴妃」／梅若万三郎

⑥ 狂言「水汲」／シテ：高澤祐介、アド：三宅近成

⑦ 能「小鍛冶」白頭／シテ：加藤眞悟、ワキ：安田 登

アイ：高澤 祐介、笛：栗林 祐輔、小鼓：幸 信吾  
大鼓：亀井 広忠、太鼓：梶谷 英樹

● お抹茶のおもてなしがあります。

(先着順・無料・11時30分から1階ロビーにて受付)

● 着物で来場の方に記念品贈呈。

● 展示コーナー／能面・能装束等の展示、書家風喜人氏による書、友禅作家石原清紫氏(伊勢崎市在住)による着物の展示もあります。(ただし上演中は閉鎖)

## 和服の着付けサポート

——和服でお能を鑑賞しませんか——

○着物は持っているが一人では着られない方に着付けのお手伝いをします。

○事前申込制(先着10名様／12月1日から受け付け開始)

○申込先・お問い合わせ先／携帯電話 080-5532-6248(齋藤)  
携帯メール／hanagoromo.kimono@ezweb.ne.jp

## 関連プログラム

● 能楽講演会【参加は無料】

○日時 平成26年12月7日(日) 午後1時30分～午後3時30分

○場所 伊勢崎市図書館(伊勢崎市曲輪町22-21)

○内容 能「小鍛冶」、「親任」のお話・講師／加藤 眞悟

○対象者 どなたでもご参加いただけます

○お抹茶のおもてなしがあります。

● 「能」に関する展示

○日時 平成26年11月13日(木)から12月7日(日)

※午前9時～午後5時まで(閉館日を除く)

○場所 伊勢崎市図書館2階展示室

○内容 能面・能装束等及び「いせさき能」に関する展示

## 独吟「親任」

大聖寺の尊堯がさる人の子息である花菊・千満を匿っているが、敵対する那波成澄から引き渡しを求められ、応じなければ寺を焼け打ちにすると脅迫される。花菊は自らを引き渡すように求め、千満も兄の身代わりになることを求めるが、親任をはじめとした衆徒は団結して成澄を討つことを決める。寺の能力の機転により、成澄らに酒をあたえ、油断に乗じて衆徒たちは攻め立てる。花菊・千満もこれに加わり、成澄を討つ。(伊海孝充著「切合能の研究」より)  
親世長俊の作とされるが、演能記録は残っていない。今回は、独吟という上演形式で復曲します。

## 仕舞「楊貴妃」

玄宗皇帝に仕える方士(ワキ)は皇帝の命を受けて楊貴妃の魂魄のありかを尋ねて蓬萊宮へ赴く。所の者(アイ)から居場所を聞いた方士は、教えに従い太真殿へ行き楊貴妃(シテ)と会う。楊貴妃は形見のかんざしを渡し、玄宗と過ごした在りし日を懐かしんで霓裳羽衣の曲を舞う。しかし、昔に戻れるでもなく、浮世のはかなさに伏し沈み方士を見送る。仕舞では最後の部分を能面・能装束を着けなくて紋付袴で舞います。

## 狂言「水汲」

野中に清水に水汲みに出かけた娘いちゃ(アド)に、修行中の僧である新発意(しんぼち)は小歌にのせて恋心を伝えます。いちゃも水を汲みながら小歌で応えますが、どうもつれない様子…。中世に流行した歌謡が織りなす、抒情性あふれる男女の恋模様。大蔵流では「お茶の水」という曲名です。

## 能「小鍛冶」白頭

一条帝が不思議な夢を見て橘道成(ワキツレ)を勅使として名工三条小鍛冶宗近(ワキ)に御剣を打つことを命じます。宗近は承ったものの、優れた相槌の者がいないので途方にくれ、氏神である稻荷明神へ祈願します。すると老人(前シテ)が現れ、名剣の故事を語り草薙の剣の物語を詳しく語って神通力によって力を貸し与えるという消えてゆきます。(中入)宗近は、注連縄を張った壇上で祝詞を唱えて待っていると、稻荷明神が狐(後シテ)として現れ相槌を打って表に小鍛冶宗近、裏に小狐と銘を打って勅使に捧げ、稻荷山に帰って行きます。小書で前シテは童子から老人になります。また、後シテの扮装が赤頭から白頭になり曲柄が狂戯になります。



## 伊勢崎市境総合文化センター

群馬県伊勢崎市境木島 818 Tel.0270-76-2222  
URL ● <http://www.12.wind.ne.jp/sakaibunka/>



## 伊勢崎市図書館

群馬県伊勢崎市曲輪町 22-21 Tel.0270-23-2346  
URL ● <http://www.library.isesaki.gunma.jp/>